

令和7年度 横浜明朋高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上 (法令の遵守(高い倫理観の保持及びわいせつ事案をはじめとする不祥事の根絶)、 サービス規律の徹底)	教育公務員としての自覚を持ち、法令遵守の意識と高い倫理観をもって職務を遂行する。	定期的に行われる事故・不祥事防止研修において法令遵守の意識やサービス規律の徹底を呼び掛けた。また、グループワークを用いて話し合う形式の研修会を行い、職員間での不祥事防止に対する共通認識や協力体制を確認した。管理職による面談時にも、法令遵守やサービス規律について確認し、職員は高い意識をもって行動している。
職場のハラスメント (パワハラ、セクハラ、マタハラ等)の防止	職員間のハラスメントを未然に防止し、気にかかることを互いに話せる風通しのよい職場づくりを進める。	啓発資料を用いて、ハラスメントに関する研修を行うとともに、管理職による面談等での聴取を行い、風通しのよい職場づくりを推進した。
生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	決められたルールを遵守し、職員一人ひとりが当事者意識をもち、セクハラ(スクール・セクハラを含む)やわいせつ行為の防止に取り組む。	SNS等を用いた生徒との私的な連絡が厳禁されていることを定期的に確認している。職員は、学校外から生徒に連絡を取る際には、Google クラウドルームや学校携帯電話を利用するなど、適切な連絡手段を講じていた。また、不祥事に関する報道があった場合は、職員会議や打ち合わせで記事等を提示して職員に注意を喚起した。
体罰、不適切な指導の防止	職員一人ひとりが当事者意識をもち、生徒の人権を尊重し、体罰、不適切指導の発生を未然に防止する。	啓発資料を基に、職員全員を対象とした職場研修を実施した。また、指導や支援に際しては、複数対応やオープンスペースの利用など、職員は事故防止を意識しながら生徒と接している。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理及び進路指導関連業務の遂行を適正に行い、職員一人ひとりが当事者意識をもち、事故を未然に防止する。	業務の実施前にマニュアル等を確認する場を設けて、事故防止意識の向上を図った。また、点検や確認作業においても関係者の研修を丁寧に行い、ミスの防止に努めた。今後も日常の入力や点検の作業において間違いや担当者同士の行き違いがないよう、事故防止を意識して業務を行う必要がある。
個人情報等の管理、 情報セキュリティ対策	個人情報の管理に係る意識を高め、個人情報の流出を未然に防止する。	個人情報の収集や持ち出しについては、個人情報持ち出し許可願い等の手続きを徹底して、事故を防止している。文書の廃棄に関しても、法定保存期間を確認した上で起案し、事故を防止している。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規や交通マナーの遵守を徹底し、交通事故・交通違反を未然に防止する。	啓発資料を基に、職員全員を対象とした職場研修を実施している。管理職との面談時にも交通事故や交通違反の防止について触れるとともに、年末には飲酒運転防止の呼びかけを行った。
財務事務等の適正執行	私費会計基準及び執行手順を確認し、適切な会計処理を推進する。	会計監査や財務事務調査の結果を周知して、過大な繰越金が生じないように、予算の計画的な執行に努め、適正に会計処理を行っている。転退学者の私費についても遅滞なく返金を完了するよう努めた。

○ 令和7年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和8年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

定期的な事故・不祥事防止研修を行い、各グループや担当者が中心となって事故・不祥事防止に取り組んできた。引き続き、職員間の情報共有を密にし、風通しのよい職場を目指してコミュニケーションの活発化、年代の違う職員間の協力体制の構築に努めていく。

単位制普通科の多部制である本校は、成績や日々の出欠の記録等の入力に神経を使うことが多い。また、在県特別募集枠等の入学者選抜もあり、成績処理や入学者選抜において点検や確認作業が膨大である。令和8年度においては、入学者選抜や成績処理において、マニュアルの整備や手順の確認を徹底し、引き続き事故防止に努める。